

受付	個人質問	第	号
	令和 年 月 日	時	分

## 一般質問＜個人＞発言通告書

令和4年8月23日

長久手市議会議長 殿

長久手市議会議員 わたなべさつ子

会議規則第59条第2項の規定により下記のとおり通告します。

	質問事項及び要旨	備考
1	<p><b>75歳以上の高齢者医療窓口負担2割化について</b></p> <p>2022年10月から75歳以上の後期高齢者医療において、単身世帯で年収200万円以上、夫婦とも75歳以上の世帯で年収320万円以上の窓口負担が、現在の1割負担から2割負担へと変更される。</p> <p>(1) 市の後期高齢者医療の令和3年度と令和4年の給付者数はどのようなか。</p> <p>(2) 受診率はどのようなか。</p> <p>(3) 10月から1割から2割になる対象者は何人か。</p> <p>(4) 県内の多くの市町村ではひとり暮らし高齢者への医療給付制度が実施されている。市においても実施するべきではないか。</p>	
2	<p><b>新型コロナウイルス感染症の影響による国民健康保険税の減免について</b></p> <p>コロナ禍の影響で、国民健康保険料・税の納付が困難な場合に活用できる「コロナ特例減免」制度が2022年4月以降も延長されることになった。特例減免は、コロナ禍の影響で2022年度の収入が前年比30%以上の減少が見込まれる場合に活用できる。厚生労働省は「自治体の判断で個別の事情に応じて減免することは可能だ。財源として地方創生臨時交付金を利用することもできる」と回答し</p>	

	<p>ている。</p> <p>(1) 市における令和2年と令和3年におけるコロナ減免の件数と金額はいくらになるか。</p> <p>(2) 広島市では令和2・3年度分についても減免対象とする施策を行っているが、当市においても過年度分の減免を行うことはできないか。</p>	
3	<p><b>Nーバスについて</b></p> <p>令和4年4月から65歳以上の赤あつたかあど所持者も運賃100円が必要になり、4か月が経過した。令和4年6月に示された資料では、11枚綴り回数券192冊、フリーパス1か月27枚、3か月24枚、6か月31枚とのことであった。令和4年3月284,200円の料金収入が令和4年4月には983,570円となっている。令和4年度の4～6月の乗車人数と令和3年度の同期間の乗車人数をみると5月からほぼ同数で経過している。</p> <p>(1) 市は赤あつたかあど所持者を100円に値上げして、平成30年度実績で試算して4.6%から15.6%に収支率を上げるとした。市は令和4年度における市の支出する運行負担金をどのように見込んでいるか。</p> <p>(2) 回数券やフリーパス券を1か月単位で購入する人が多く存在する。購入場所が現在の4か所では不便と訴える市民の声がある。購入場所を増やせないか。</p> <p>(3) 通学用に利用する高校生も減免対象にできないか。</p> <p>(4) 令和3年度巡回バス運行業務負担金1億93万4,524円の内訳はどのようなか。</p>	
4	<p><b>市のデジタル推進について</b></p> <p>市は令和4年3月にデジタルトランスフォーメーション推進計画を示した。計画の位置づけとして「官民データ活用推進基本法」及び愛知県策定の「あいちDX推進プラン2025」を踏まえ、計画期間を令和8年度までとしている。また、国の動向を踏まえ必要に応じて適宜見直すとしている。目的を、国の自治体DX推進計画が重点取り組みとしている自治体の情報システムの標準化・共通化に対応していく。市が担う行政サービスの住民の利便性と業務の効率化としている。</p> <p>(1) 自治体の情報システムの標準化・共通化に対応していくとは、標準・共通したシステムを導入するということか。</p>	

	<p>(2) 市の保有する官民データとはどのようなものか。</p> <p>(3) 7市町村オープンデータ共通項目の拡充と、他自治体との情報共有とはどのようなか。</p> <p>(4) 国民健康保険税減免などの市の独自施策は残せるのか。</p> <p>(5) 個人情報保護審査会はどのように変わるのか。</p>	
5	<p><b>ヒメボタルの生息地の保全について</b></p> <p>現在長久手市内では、岩作丘陵・大草丘陵・三ヶ峯丘陵の竹林・社寺林・香流川土手でヒメボタルの生息が確認されているが、生息地は年々減少傾向にある。ヒメボタルは陸生のホタルであり、開発を逃れた場所に生息している。ヒメボタルのメスは後翅が退化し移動が困難なので、生息地の乾燥化、農薬、街路灯などの光害（ひかりがい）の影響を受ける。</p> <p>(1) 市は市内に生息するヒメボタルの現状を確認しているか。1980年と1981年に町史編集のため町全域を対象にした現地調査をしたが、それ以降の夜間における現地調査は行われているか。</p> <p>(2) 市内のヒメボタル生息地にある街灯・防犯灯・神明社内の照明灯を、ホタルの生息に影響を与えにくい波長(597ナノメートル)のオレンジ色の照明に変更しないか。</p> <p>(3) 民間事業者にも、オレンジ色の照明への変更協力を求めないか。</p> <p>(4) 岩作丘陵は全域でヒメボタルの発生が見られる市内最大の数の生息地である。岩作丘陵で瀬戸大府東海線の夜間照明の対策はあるか。</p> <p>(5) ヒメボタルの生息地の保全には、長久手市里山基本計画に示すとおり、「協働で守り、育み、次世代に継承できる『持続可能な里山』を目指す」ことが必要であるが、市の見解はどのようなか。</p> <p>(6) 里山の管理及び保存について、例えば湿度を保つために冬水田んぼなどのような対策ができるか。</p>	